

茨城県北部におけるカワネズミ *Chimarrogale platycephala* の生息確認*

藤本竜輔**・竹内正彦***・山崎晃司****,*****

(2015年6月12日受理)

Habitation Records of the Japanese Water Shrew *Chimarrogale platycephala* in the Northern Part of Ibaraki Prefecture, Central Japan *

Ryusuke FUJIMOTO **, Masahiko TAKEUCHI *** and Koji YAMAZAKI ****,*****

(Accepted June 12, 2015)

Key words: Japanese water shrew, *Chimarrogale platycephala*, Ibaraki Prefecture.

はじめに

カワネズミ *Chimarrogale platycephala* (Temminck, 1842) は山地溪流に生息する半水生適応した小型哺乳類であり、国内の分布域は本州および九州とされており、本州では33都府県で報告がある。関東地方では千葉県のみ記録がない (Abe, 2009)。茨城県内にも生息するものとされてきたが、これまでの記録は、目視や、確認方法の記載がないものが少数存在するのみで (吉武, 1998; 山崎ほか, 2001; 安田ほか, 2010)、写真や標本などを伴う記録がなかった。今回、筆者らは県内の溪流において自動撮影および捕獲による調査を実施し、動画撮影および生体捕獲を伴う生息場所の記録を得たので報告する。

調査地および方法

茨城県久慈郡大子町、高萩市および北茨城市の溪流において、自動撮影調査と捕獲調査をおこなった (表1)。

自動撮影調査には赤外線受動感知式の自動撮影カメラ (HGC SG-007, Shenzhen siyuan digital technology co., ltd, Shenzhen, China) を用いた。2013年11月12日～2014年6月1日の期間は同時に最大5台を静止画撮影モードで稼働させ (延べカメラ稼働日数582日、地点番号01～07)、2014年6月1日～同年7月3日は同時に2台を動画撮影モードで稼働させた (延べカメラ稼働日数64日、地点番号04および07)。稼働期間中は約1カ月ごとに見回り、SDカード、電池、誘引餌 (全長15 cmほどのアジ1尾をテントベグにタコ糸で結束して固定したもの) を交換した。

*本研究の一部は茨城県版レッドデータブック (動物編) 改訂作業 (茨城県生活環境部環境政策課) の補完調査によって実施した (This study was partially supported by the revision project of the red data book for animals in Ibaraki prefecture.)

** 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 福島研究拠点 〒960-2156 福島県福島市荒井原宿南50 (NARO Tohoku Agricultural Research Center Fukushima Research Station, 50 Harajukuminami, Arai, Fukushima, Fukushima 960-2156, Japan).

*** 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 〒305-8666 茨城県つくば市観音台3-1-1 (NARO Agricultural Research Center, 3-1-1 Kannondai, Tsukuba, Ibaraki 305-8666, Japan).

**** ミュージアムパーク茨城県自然博物館 〒306-0622 茨城県坂東市大崎700 (Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando, Ibaraki 306-0622, Japan).

***** 現所属: 東京農業大学森林総合科学科 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 (Faculty of Forest Science, Tokyo University of Agriculture, 1-1-1 Sakuragaoka, Setagaya, Tokyo 156-8502, Japan).

表 1. 茨城県北部でのカワネズミ生息確認調査地点.

Table 1. Location of study sites for confirming the inhabitation of *Chimarrogale platycephala* in the northern part of Ibaraki Prefecture, central Japan.

地点番号	緯度	経度	水系	地名	確認有無
01	36.7337480	140.4078250	久慈川	久慈郡大子町袋田	-
02	36.7337330	140.4078290	久慈川	久慈郡大子町袋田	-
03	36.7338019	140.4078240	久慈川	久慈郡大子町袋田	-
04	36.8208460	140.6076690	大北川	高萩市横川	-
05	36.8647210	140.6182320	花園川	北茨城市華川町花園	-
06	36.8589750	140.6277110	花園川	北茨城市華川町花園	-
07	36.8393247	140.6798255	花園川	北茨城市華川町小豆畑	+
08	36.8391860	140.6799020	大北川	高萩市横川	+
09	36.8392310	140.6798820	花園川	北茨城市関本町才丸	+
10	36.8871780	140.6237150	花園川	北茨城市関本町才丸	-
11	36.8827210	140.6296420	花園川	北茨城市関本町才丸	+
12	36.8810560	140.6319760	花園川	北茨城市華川町花園	+
13	36.8648340	140.6177300	花園川	北茨城市華川町花園	-
14	36.8607530	140.6258480	花園川	北茨城市華川町花園	-
15	36.8581820	140.6258170	花園川	北茨城市華川町花園	+
16	36.8514620	140.6154880	花園川	北茨城市華川町小豆畑	-
17	36.8385510	140.6105490	花園川	北茨城市華川町小豆畑	-

地点番号の 01 ~ 07 で自動撮影調査, 08 ~ 17 で捕獲調査をおこなった。大北川と花園川は河口付近で合流するため、本来は両方とも大北川水系とするのが正しいが、ここでは便宜上分けて記した。

表 2. 茨城県北部で捕獲されたカワネズミのリスト.

Table 2. A list of *Chimarrogale platycephala* captured in this study in the northern part of Ibaraki Prefecture, central Japan.

番号	性別	頭胴長	尾長	後足長	耳長	体重	捕獲地点	標本番号
1	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	08	n/a
2	♂	136.0	123.5	28.5	9.0	50.0	09	INM-1-060617
3	♂	135.0	115.0	29.5	10.5	44.4	11	INM-1-060618
4	♀	124.5	109.5	26.5	9.5	37.6	12	INM-1-060619
5	♂	139.0	126.5	30.0	9.5	55.5	15	INM-1-060620

捕獲日は 2014 年 7 月 24 日である。番号 1 は捕獲後放逐した。計測値の単位は mm および g。頭胴長、尾長、後足長、耳長は各 3 回計測した平均値を示す。頭胴長は全長から尾長を除いて求めた。後足長および耳長は左側を計測した。後足長は爪の長さを含まない。捕獲地点の数字は表 1 の地点番号を示す。標本はミュージアムパーク茨城県自然博物館に収蔵された。

捕獲調査にはカワネズミを生け捕りしやすい構造に改良したカゴワナ（藤本ほか, 2011）を用いた。2014 年 7 月 23 日の正午から日没の間に 10 台を設置し、翌 24 日の日出から正午までの間に回収した。誘引餌には全長 15 cm ほどのアジを用いた。

なお、これらの調査は茨城県知事より学術研究捕獲許可（第 26900021 ~ 26900022 号）を得ておこなった。

結 果

自動撮影調査の結果、カワネズミが誘引餌を持ち去ろうとする様子が 3 回撮影された。3 回すべてが北茨城市の地点番号 07（表 1）において動画撮影モードのカメラで撮影され、撮影日時は 2014 年 6 月 1 日 20 時 6 分、同 20 時 51 分、同 21 時 33 分であった。このほかにカワネズミは撮影されなかった。

捕獲調査の結果、高萩市および北茨城市において計 5 個体のカワネズミが捕獲された（表 2）。このうち、



図 1. 茨城県高萩市の大北川で捕獲後放逐したカワネズミ。
Fig. 1 A *Chimarrogale platycephala* before release, which was captured at Okita River in Takahagi City, Ibaraki Prefecture, central Japan.

その場で放逐した 1 個体（図 1）を除いて、4 個体を持ち帰り、性判別および外部計測の後、仮剥製標本、頭骨標本、組織片アルコール液浸標本を作成した。

考 察

カワネズミは人為的な環境変化に脆弱であることが知られており（阿部，2003），溪流を含む山地生態系の指標種と位置づけられる。今回の調査によって現在も本種が茨城県内に生息する事実が明らかになったが，その生息範囲や個体群の現況については不明なままである。特に河川上流部における流路固定の工事や農林業による土砂などの流入に起因する生息適地の減少が生息を脅かす要因として挙げられる。今回生息を確認した高萩市および北茨城市の比較的標高の高い地域にも，このような河川沿いの改修地や畜産施設，大規模な営林地が散在していた。このため，当地の個体群の健全な存続が懸念されるので，定期的な生息状況調査が必要であると考えられる。

また，今回生息を確認したのは茨城県の東北端に位置する大北川水系（花園川含む）のみである。県内にはほかにも久慈川や那珂川の上流域，また筑波山付近などに溪流様の河川が存在している。県南地域においても，目撃情報ではあるが，1998年5月に旧八郷町上曾（現石岡市）の一言稻荷神社付近の溪流（緯度36.2561111，経度140.1572222）において，カワネズミ1個体が確認されている（河瀬直幹氏私信）。今後はこれらの地域においても生息状況の調査が必要となる。

謝 辞

本調査を進めるにあたり増渕魚園の増渕英樹氏，南相馬市博物館 学芸員の稲葉 修氏，筑波大学環境科学研究科（現甲賀市みなくち子どもの森自然館）の河瀬直幹氏にはカワネズミの生息情報を提供していただいた。ここに御礼申し上げる。

引用文献

- 阿部 永. 2003. カワネズミの捕獲, 生息環境および活動. 哺乳類科学, **43**: 51-65.
- Abe, H. 2009. *Chimarrogale platycephala* (Temminck, 1842). In: Ohdachi, S.D., Y. Ishibashi, M.A. Iwasa and T. Saitoh (eds.). *The wild mammals of Japan*. pp.16-17, Shoukadoh, Kyoto.
- 藤本竜輔・安藤元一・小川 博. 2011. カワネズミ *Chimarrogale platycephala* における効率的な捕獲調査方法の検討. 農学集報, **55**: 290-296.
- 山崎晃司・小柳恭二・辻 明子. 2001. 茨城県でこれまでに確認された哺乳類について. 茨城県自然博物館研究報告, (4): 103-108.
- 安田雅俊・奥村みほ子・山崎晃司. 2010. 茨城県北部の小川群落保護林およびその周辺における野生哺乳類の記録. 茨城県自然博物館研究報告, (13): 99-104.
- 吉武和治郎. 1998. 茨城県の獣類雑記－交通事故死した獣の鎮魂歌－. 茨城生物, (18): 33-57.

(キーワード): カワネズミ, *Chimarrogale platycephala*, 茨城県.